

「私、侍嫌いや、人斬庖丁を持つて居るで」

「どうぞお静に願ひ申します」

「モウ是れ丈騒いだら結構や、モウ静にするあんじよう斷り云ふて、女の人も歸つて貰ふで、飯を喰ふて寝る、寝て話をする位は構へんやろ」

「ハイ、話位は何んぼ仕ていたゞいても大事御座りまへん」

「オイ、飯を喰ふたら寝よ……オイ女中さん、寝間を敷いて……そんな不細工な寝間の敷き方を仕ないな、今も云ふてるがな、寝間で話をするのに三つ並べて敷いたら真中の者は兩方の顔が見へるが、端に寝て居る者

は端の顔が見えへん、寝間を三方から敷いて頭を真中へ寄せて来る、これを巴寝と云ふ……さう、是れで頭を上げたら三人の顔が見られるやろ、併しこんな洒落た事は無いナ、宿屋へ泊つて藝妓を呼んで散財を仕て侍に叱られて、ビツクリ止りが仕て一遍に寝るやなんて、何時〜迄もこんな面白い事があつたと、話の種になる、併しようこないに三人が意氣が合ふな、今度の伊勢詣りがそらうや、俺が伊勢へ行こうと云ふたら、お前等も行こうと云ふ、金毘羅詣りを爲しようと云ふと、行こう、花見が三人、芝居へ行くのも三人、相撲を

